

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 遅刻・欠席を減らす、服装容儀を整えるなど基本的な生活習慣の一層の確立を目指す。	① 全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻の減少に努める。	（達成度判定基準A+B80%以上） 遅刻指導を A 積極的に行った B 必要に応じて行った C 時々行った D ほとんど行わなかった （C、Dの場合次年度取組再検討） 遅刻者数が前年度比、 A 80%未満であった B 80%以上～90%未満であった C 90%以上～100%未満であった D 100%以上であった	A 45.8% B 47.9% C 6.3% D 0.0% 77%でA (2月現在)	5月時点で昨年比148%であった遅刻について2月現在で昨年比77%まで改善された。教職員の遅刻指導評価もA+B93.7%と登校指導・遅刻頻回者指導・朝学習など学校あげでの取組みの成果が現れた。 反面、5月時点で昨年比120%であった欠席は2月現在昨年比106%であり、まだまだ取組みが必要である。次年度は遅刻に加え欠席についても具体的な指導方法を検討し、取組みを継続して行っていく。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	（達成度判定基準A+B80%以上） 頭髪・服装容儀指導を A 積極的に行った B 必要に応じて行った C 時々行った D ほとんど行わなかった	A 41.7% B 54.2% C 4.2% D 0.0%	教職員の頭髪・服装容儀指導評価はA+B95.9%で目標達成しているが、生徒の実態はこの数値と差がある。指導に苦慮する場面もあるが、全教職員が一致し、次年度は生徒の評価を取り入れ指導を継続して行っていく。
	③ 職員間の連携をより密にし、生徒理解を深める。	（達成度判定基準A+B80%以上） 職員間で連携した支援・指導ができるよう A 常に関係職員に連絡した B 時々連絡した C あまり連絡しなかった D ほとんど連絡しなかった	A 45.8% B 52.1% C 2.1% D 0.0%	職員間の連携した支援・指導についての教職員評価は、A+B97.9%で職員間でしっかり連絡をとり、生徒理解を図った。次年度は生徒の評価を取り入れるよう検討する。
学校関係者評価委員会の評価	・教職員の努力指標の達成度判断基準結果A+Bでは達成しているが、A評価（積極的に行った）の割合が低すぎる。 ・基本的な生活習慣の指導は学習効果を高める意味合いもあり、これが緩むと学校が崩れていく傾向にある。是非とも次年度も継続して取り組んでもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・次年度は遅刻指導に加え、欠席についても数値目標を掲げ取り組んでいく。 ・教職員の努力目標による評価の観点ではなく、生徒の満足度指標を重視し、服装容儀・規律・マナーの向上について取り組んでいく。			
2 少人数授業の特徴を最大限に活かした授業改善に努め、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的にを行い、授業改善に努める。	（達成度判定基準A+B80%以上） 少人数授業の改善に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A 20.8% B 58.3% C 14.6% D 6.3%	本校は総合学科であり、少人数授業改善の取組は不可欠である。評価結果は79.1%であり、おおむね目標は達成できたと思われる。しかし”ほとんど取り組めなかった”6.3%の評価もあり、次年度少人数授業の特徴の理解を含め研究授業・授業参観等により、工夫をして継続した取組を行っていく。
	② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	（達成度判定基準A+B60%以上） 私は A 多くの科目で興味が持てた B 約半数の科目で興味が持てた C 約3分の1の科目で興味が持てた D わずかの科目しか興味が持てなかった	A 11.2% B 35.8% C 28.4% D 24.6%	1年40.7%、2年52.1%、3年48.3%、全学年47.0%との結果であった。目標達成に全く及ばない厳しい評価であった次年度は1年生に対し入学後直ちに中学校の復習を行うなどわかる授業の取組みを図る。また、2・3年生については各教科で授業内容の改善を行い、興味・関心を引き出していく授業を展開していく。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	（C、Dの場合次年度取組再検討） 授業以外の平均学習が、1時間以上の生徒が、 A 70%以上である B 50%以上～70%未満である C 20%以上～50%未満である D 20%未満である	34.6%でC	中間評価の26.5%は上回ったが全体として授業以外の学習時間は少ない。次年度に向け、今以上に進路に向けた3年生の取り組み、資格取得に対する全学年の取り組み強化を図って行かなければならない。
	④個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	（達成度判定基準A+B80%以上） 授業外で補習や個人指導を A 積極的に行っている B 必要に応じて行っている C 時々行っている D ほとんど行っていない	A 29.2% B 45.8% C 16.7% D 8.3%	授業以外で補習や個人指導を”積極的、必要に応じて行っている”が75.0%、”時々行っている、ほとんど行っていない”が25.0%であり、次年度はC、Dの評価割合が少なくなるよう全職員が生徒一人一人に対してきめ細かく対応していくよう継続して取り組んでいく。
		（C、Dの場合次年度取組再検討） 受験者数（延べ）が、 A 1000人以上であった B 850人以上～1000人未満であった C 750人以上～850人未満であった D 750人未満であった	1,211人で A	昨年度1,131人であった資格取得受験者は1,211人に増加した。生徒の進路実現に向け、資格取得に対するより一層の取り組みを強化していく。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の努力指標の達成度判断基準結果A+Bでは達成しているが、A評価（積極的に行った）の割合が低すぎる。 ・授業への意欲は自分の進路に対する目標が定まると、自ずと高まってくる。多様な生徒に対応しつつ、進路目標を立てることが大切である。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の評価の観点を設定し、教職員の努力指標の達成度判断基準結果のA評価（積極的に行った）の割合を上げ、D評価が無いように取り組む。引き続き少人数授業の改善に取り組む。 ・検定への取り組みは今年度同様各教科で行い、今年度以上の受験者増加を目指す。 			
3 生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、系統立てたキャリア教育を推進する。	①各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	（達成度判定基準A+B80%以上） 進路実現に向けた適切な支援・助言を A 積極的に行い、キャリア教育を推進した B 必要に応じて行った C 時々行った D ほとんど行わなかった	A 27.1% B 52.1% C 16.7% D 4.2%	教員間で生徒に対して適切な支援・助言を行える場面の温度差があり目標値を達成できなかった。次年度は全職員でキャリア教育を行えるよう再検討していきたい。
		（達成度判定基準A+B70%以上） 進路行事・「産社」・「総合」の学習が A 進路を考える上で、大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A 16.1% B 64.2% C 11.9% D 7.8%	A+Bが80.3%とおおむね目標は達成している。生徒の職業観や進路目標の確立について「産社」「総合」は重要な学習と位置づけており、内容を精査し、次年度A評価の割合が上がるよう企画、進路、学年の連携をとりながら実施していく。
	②保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	（達成度判定基準A+B70%以上） 提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A 8.1% B 61.8% C 25.3% D 4.8%	提供された情報に対しての満足度A+Bは1年64.1%、2年65.5%、3年80.5%と進路が具体的になるに従って情報に対する満足度も上がっている。次年度は情報の内容、伝達手段等も含め、”あまり満足できなかった”の割合を少なくなるよう継続して取り組んでいく。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年で進路選択を急がせる必要はないのではないか。1, 2年次はもっとすべての授業で学力を身につけることや、高校生活全体を考えるべきではないか。 ・学校からの情報に対する保護者の満足度指標に対して、学校からの情報は生徒を通してもたらされるものが多い。その情報がしっかり伝わるかどうかは、その家庭環境や親子関係にあると思われる。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科高校としては1年次に体験学習や「産業社会と現代」の時間を通して自己の進路について考えていく。基礎基本の学力充実を図る。 ・様々な機会を捉えて、より確実に保護者に進路情報を伝え、学校と保護者が連携をとって生徒の進路実現に取り組んでいく。 			
4 活気のある北陵高校を目指すために、部活動の積極的な加入・活動を推進する。	① 部活動の活性化を目指し支援・運営する。	（達成度判定基準 A + B 70%以上） 部活動の指導に A 積極的に参加し、十分な支援ができた B できる限り参加し、概ね十分な支援ができた C あまり参加せず、十分な支援をしていない D ほとんど参加せず、支援もしていない	A 20.8% B 62.5% C 14.6% D 2.1%	部活動の活性化に対する教員の支援・運営状況は A + B 83.3% であるようにおおむね良好である。しかしその内容は 2 極化しており、部活動を学校における生徒理解・生徒指導の大きな柱として今以上位置づけし、次年度は具体的数値を示し、部活動に対する教員の支援・運営を促していく。
		（達成度判定基準 A + B 70%以上） 目標を持って部活動することが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった	A 31.0% B 32.8% C 12.1% D 24.2%	目標を持って部活動することができなかった生徒 24.2% の回答には、部に加入していない生徒及び加入していても活動していない生徒が相当数含まれている。まず全校生徒に加入を促し、活動を活性化していく取組を行う。次年度は部活動参加を具体的数値で評価していく。
	② 地域行事等に参加し、地域との連携を密にする。	（達成度判定基準 A + B 70%以上） 公共心や自己啓発に対する必要性や情報を A 積極的に発信している B ある程度発信している C あまり発信していない D まったく発信していない	A 25.0% B 54.2% C 20.8% D 0.0%	教員アンケートでは A + B の肯定的回答は 79.2% で目標を達成している。次年度は教員自らが地域行事等に参加し、生徒にその必要性や情報を発信できるよう取り組んでいく。
		（C、D の場合次年度取組再検討） 一度は参加した生徒が A 200人以上であった B 150人以上～200人未満であった C 100人以上～150人未満であった D 100人未満であった	190人でB	生徒会を中心とした総合養護学校との交流、JRC部を中心とした老人ホーム慰問、また今年度浅野川水害に対するボランティア活動など地域行事・ボランティア行事へ参加した生徒数は目標に若干及ばなかった。次年度はこの数値を上回るよう取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の特定の部ががんばっている様子はいかがだが、全体としてはまだまだ低調なのではないか。 ・部活動についても教職員の積極的な支援が必要である。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動活性化のために受け皿を整備して、1年次部活動全員入部の方向を検討する。 ・ボランティア活動の情報提供を積極的に行い、今年度以上の参加生徒数の増加を目指す。 			